

My Campus Life

マイキャンパスライフ



自身の経験を振り返り、今までと違った分野にも目を向け、気の合う仲間を見つけたことで、学生生活がより充実したものになると話す後野さん。

「部活を選ぶにしても、中学、高校と同じ部に入るのもいいですが、新歓にも参加して、いろんな活動を見て回り、雰囲気などが自分にあっているかどうか確かめながら決めるといいと思います。」

後野さんの部活選びの決定打は「面白いメンバーが揃っていたこと」。楽しい雰囲気が入り、野球部に入ったといいます。

「野球は大学に入ってからはじめたので、そんなに上手じゃないです（笑）。夏に大きな大会があるんですが、初心者も活躍できるチャンスがあり、楽しいですよ。」

家族が野球好きで、お兄さんも

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。心弾む新生活。いろいろプランを練っていることと思います。充実した学生生活を送るヒントを先輩達からもらいましたので、ぜひ参考にしてみてください。



八木橋さんが持っているのが主翼の型紙。今後、試作翼を作成し、主翼を作り、6月にはテストフライトを行い、大会まで微調整していく予定。

自作人力飛行機による飛行距離、飛行時間を競う「鳥人間コンテスト」。そう聞いただけで番組のテーマソング「スカイ・ハイ」と共に琵琶湖を舞台に飛行機に夢をかける人達の熱闘が思い浮かびます。

コンテストへの出場を目指し、入学してすぐに「鳥人間プロジェクト」を立ちあげた八木橋さん。もともとパイロットになりたいという夢があり、その夢を鳥人間へとつなげてくれたのは、入学式で初めて会った同じコースの女の子。「女子が少ない学科だったせいもあると思うんですが、入学して3日後くらいにはすごく仲良くなつて、『なんかやろう！』と盛り上がり、『ものづくりをするならやつぱり鳥人間じゃない!』と、その子からイノベーションプラザのことを聞いて、プロジェクトを立ち上げま



実際の大きさの模型。幅は20m。極力省スペースでできるように、組み立て式にしている。パーツは最長でも3mくらい。主な材料はCFRPという軽くて丈夫なカーボン。1機作るのに70~80万円くらいかかるそうですが、仲良くしている企業からお下がりをもらってコストダウンしています。

これまでやったことのないことにも目を向け 気の合う仲間との出会いを大切に

蔵本キャンパス
歯学部 歯学科 4年
後野 秀一朗 (あとのしゅういちろう)

My Life Situation

趣味: 野球
アルバイト: 福岡ドームでの短期のアルバイト
所属: 野球部

勉強で注意しておくことは、「入学したらまず先輩に、履修の仕方を早めに聞いておくのがいいと思います。僕の学科では2~3年生の間に共通教育を取得しないといけないんですが、必須科目と自由に選択できる科目があり、大体1科目2単位ですが、中には1単位のものもあり、気付かないと単位不足になることも。先輩に聞いて決めるのがいいと思います」とア

履修科目の選択は先輩のアドバイスに従うのがベター

野球をやっているのだとか。「野球部に決めたのは兄とは将来、同業者になるかもしれないので、共通の話題があれば」という気持ちもありました。地元が福岡なので、好きな球団は福岡ソフトバンクホークス。帰省した時だけ福岡ドームで短期のアルバイトをしていて、間近で野球観戦ができるというメリットがあります。

徳島でも地元球団・徳島インディゴソックスの試合を見に行くこともあるそうで、昨年、独立リーグ日本一をかけた栃木ゴールデンブレーブスとの対戦も観戦。「その時インディゴソックスが優勝して、めちゃくちゃ感動しました!」。



歯型彫刻の作業をしているところ。つい最近までは研究室配属で組織再生制御学の実験を行う研究室で、再生医療の薬についての研究を行っていたそう。「担当の先生がSHED CMという薬の特許を持っていて、脊髄を損傷したマウスにその薬を投与すると、脊髄損傷が回復するんですが、その実験の手伝いをしていました。」



「部活の写真はあんまりいいのなくて。これ、大会の合間にバフェを食べているところです!」と提供いただいた写真。ツッコミどころ満載で、野球部のユニークさを垣間見た気がします。

ドバイス。最初から決めつけず、先輩や友達のアドバイスも参考に、まっさらな気持ちで周りと接すると、新しく興味をひかれるものが見つかるかも。そんなものを見つけたらぜひチャレンジしてみてください。

やりたいことは全部やる! 目指せ、鳥人間コンテスト出場

常三島キャンパス
理工学部 理工学科 3年
八木橋 依吹 (やぎはしいぶき)

My Life Situation

趣味: 運動すること
所属: 鳥人間プロジェクト、ラクロス部

コンテストは滑空機部門と人力プロペラ機部門の2つがあり、「飛行機の基礎を学ぶには滑空機がいい」と、初期メンバーで話し合い、滑空機部門での挑戦を決めました。「鳥人間界では他団体へ見学に

鳥人間コンテスト2020の開催は7月25日、26日!

イノベーションプラザでは現在8つのプロジェクトが進行中で、活動資金確保のため、教授達の前でプレゼンし、限られた予算を奪い合う(R)のだとか。プレゼンは5月、速攻でプレゼンの準備に取りかかり、なんとかクリアするも、苦勞したのがメンバー集め。「食堂の前でビラ配りをしてなんとか人を集め、今は9人で活動しています」。



メンバー募集中!ものづくりが好きな人、歓迎。

行くことが大事で、関東、関西の有名チームを見学に行ったり、企業にもお世話になっていきます。他のチームは活動歴が長いので、設計面から見直して毎回オリジナリティのある機体を作っているんですが、私達は基本的なカタチを遵守し、「小さくて頑丈」をコンセプトにデザインを工夫しました。出場が叶えば、徳島県では初出場になるので、藍染めや阿波和紙などを使用し、全国に徳島をPRできればと思っています。」

2月中旬にアビールポイントや設計図と共に申込書を提出したところで、結果は3月下旬~4月上旬にかけて通知されるといいます。八木橋さん調べによると、昨年は倍率4倍。年々競争率は上がっているそうですが、徳大の飛行機が飛ぶところを、ぜひ見て見たい!